平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター
６０ ※記入不要		

要望問題　簡易式隔離容器による果菜類栽培において、栽培方法の実態把握の実施と技術支援の実施

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

【背景】
・簡易式隔離容器に有機培地を用いた装置による果菜類の栽培が現地で普及しています。
・しかしながら、固形肥料を用いるメーカーマニュアルによる栽培方法では、肥料切れなどの問題が多発し、現在は、養液を用いて各農家が工夫して栽培管理を行っているのが実情です。
・導入農家は、土壌病害からの回避を目的に導入し、養液による肥培管理に経験がなく、技術が未熟である場合が多くみられます。
・しかし、指標なるマニュアルは整備されていません。

【内容】
・現状、装置の導入実態、どのような管理を行っているかを把握する。
・管理上の問題点を把握する。
・有機培地を用い、固形培地で肥培管理をする技術の確立。
（管理上の問題点の解決）
・必要に応じ、メーカーへの技術改善の申し入れが行えないか。

【対象地域】　県内全域　１ ha 以上　（平塚・藤沢・秦野など湘南地域で約 0.5ha）

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	農業環境部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名　（①、②、④の場合）	

対応の内容等

簡易式隔離容器に有機培地を用いた装置による果菜類の栽培については、メーカーにより資材と栽培体系を合わせて、マニュアルを用意したうえで販売されています。これについて県が独自に技術開発を行うことは困難と考えられます。

しかし、各種有機培地の特性などについては、バックカルチャーに関する資料などを参考にして、個別に相談に応じたいと考えています。

現場の実態把握、問題点の洗い出し、メーカーへの申し入れについては、装置の導入農家からの情報及び連絡調整が重要ですので、農業改良普及センターと直接連絡を取り合いながら対応したいと考えます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	